

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 556 号	氏名	長野 史子
学位審査委員	主 査	中山 浩次	
	副 査	池田 通	
	副 査	林 善彦	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、グラム陽性細菌の菌体破砕物を用いて感作および歯肉溝内滴下を行い、グラム陽性細菌の歯周組織破壊への影響を病理組織学的に検討したもので、研究目的として妥当である。 2 研究手法に関する評価 ラットをグラム陽性細菌 <i>Staphylococcus aureus</i> の菌体破砕物および比較対象としてグラム陰性細菌 <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> の菌体破砕物で感作した感作群とそうでない非感作群を作製した。そして上顎第一臼歯口蓋側歯肉溝内にそれぞれの菌体破砕物を毎日滴下し、10 日目の滴下後に上顎骨を摘出した。これから病理組織学的標本作製して観察するとともに、感作の状態を確認するために、採血も行っており、研究手法は妥当であった。 3 解析・考察の評価 2 種類の細菌の菌体破砕物による感作は非感作時に比べて、有意にアタッチメントロスが大きかった。今回の実験から、グラム陽性細菌でも免疫複合体により歯周ポケット形成が促進される可能性が示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が期待できる。 以上のように本論文は歯周炎の発症および進行のメカニズム解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。			